

タマリハ 古谷祥宏先生に聞く!

小規模デイサービスを立ち上げたいと思っていた



大学生（福祉関係を専攻）のころ、小規模デイサービスを起業したいと思っていました。まずはアルバイトをしようと思っていたところ、目黒でちょうど立ち上げたばかりのデイサービスに出会いました。その施設は職員が他業界の人（スタイリスト、デザイナー、カメラマンなど）ばかりで、副業で福祉に関わっていました。利用者様の服装や髪型、メイク、ネイルなどをスタイリッシュに格好良く仕立て上げ、散歩したり写真を撮ったり。利用者様の皆様が生き生きとして素敵なんです。目黒とい

枠にとらわれない施設に衝撃

う土地柄か、おしゃれに関心がある人が多いのかもしれない。せんが、とても満足度が高いように感じました。一方で、福祉業界ではあり得ないことが多く、例えば食事も全くの普通食で、飲み込みが心配な人もいました。福祉施設としての専門的な知識が必要だと実感しました。ただ、その枠にとらわれない自然体の関係わりも大切なのだと衝撃を覚えました。そこで自分が資格を取って施設のためになればと思いい、大学を卒業後タマリハ言語聴覚学科に入学しました。

タマリハ新聞

発行所
多摩リハビリ
テーション学院
専門学校

コミュニケーションとは

言語聴覚学科を選んだ理由は、福祉の関わり方とは違い、自由なコミュニケーションに感じたこととそれに興味を持ったためです。臨床には話せない人や聞こえない人もいて、もっと深く知りたいと思いました。社会人2年目の時にある先輩に出会い、リハビリが楽しくなりました。先輩のリハビリに対する考え方に共感することが多く、尊敬しています。卒業後は戻るつもりだったデイサービスではなく、和風会に就職して毎日違う現場で言語聴覚士として仕事をしました。職種に関わらず、領域を超えたりことや多方面思考の大切さを学びました。コミュニケーションとは、「話す」だけでなく「感じ取る」「読み取る」ことだと思えます。例えば患者様のカルテから背景を読み取ることや身につけていくものから、その人を推察することに関わり方に活かすことが出来ます。自由に、その人らしさを大切にしていきたいと思っています。

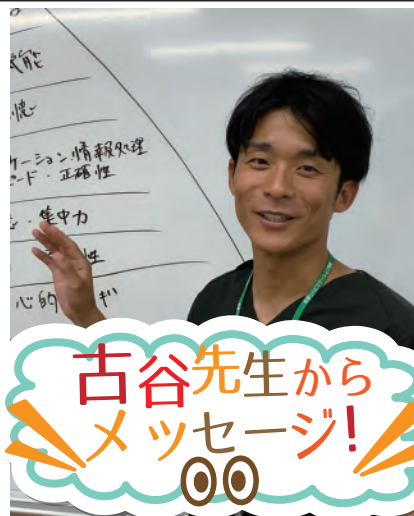
好奇心旺盛でひそかな大志を抱く 編集後記

取材の際に、個人的な第一印象について「おとなしくて引っ込み思案な方に見えた」とお伝えしたところ、「それほど間違っていないですよ」とのこと。ところが、お話を伺いするうちに、非常に柔軟で自由な発想をお持ちだということが分かってきました。どんなことも楽しんで学ぶ、

興味を持つ、これと決めたら、とことんハマる。そして何より独自の観察眼と洞察力のするどさが際立っているように感じました。お互いの興味について話をはじめたら、何時間あっても足りません笑 そんな古谷先生の授業を受けてみたいと、強く感じました。

言語聴覚士を目指す人へ

言語聴覚士の仕事は、多方面に境界性がなく自由で良いなと思います。結婚など人生設計も同じ様に自由に組み立てることが出来ることもメリットだと思います。仕事としては、患者様の深い部分、人の気持ちや感情に関わることが出来る職業だと思えます。時には怒りを受け止めたり、辛いことや大変なこともあります。それでも、その人自身を知ることや、その怒りの背景がわかると、自分の接し方ももちろん、その後の関わり方も良い方に変えることがあります。一人ひとりの人生の一部に深く関わる事ができる点も、この仕事の魅力だと思います。



古谷先生から
メッセージ!
00

多摩リハビリテーション学院専門学校

作業療法学科・理学療法学科（高卒3年課程）

言語聴覚学科（大卒2年課程）介護福祉学科（高卒2年課程）

〒198-0004 東京都青梅市根ヶ布 1-642-1 TEL. (0428)-21-2001 FAX. (0428)-21-2410

